

# 建設の機械化

## 1998.1

No.575



### ◆特集 高度情報化時代における建設事業

- ◆巻頭言 新春を迎えて……………長尾 満 1  
建設ロボットの揺籃期から現在、そして将来へ……………大林 成行 3  
建設 CALS と施工・維持管理の合理化……………吉田 正 9  
これからの建設現場における施工情報化  
—建設 IC カード施工情報システム—……………配野 均 16  
土工事の情報化施工……………宮嶋 俊和・青野 隆 22  
ダム工事における施工情報システム……………麻生 公裕 27  
アスファルト舗装工事の情報化施工  
……………田中 智彦・斉藤 徹・相田 尚 32  
シールド工事における情報化の現状と将来展望……………藤井 攻 37  
新しい時代に向けての全社情報システムの再構築……………畑 久仁昭 41  
建築生産の情報化と今後の展望……………森田 真弘 47  
◆ずいそう 趣味雑感……………梅田 亮栄 54  
◆ずいそう INTERMAT 97 と  
エジプト・南欧土木技術視察団に参加して……………南雲 政博 56  
建設新技術フェア関東 '97 見聞記  
—時代にジャストフィットする建設新技術が集結—……………中村 優 58

グラビヤ—建設新技術フェア関東 '97

- ◆わが工場 コマツ 大阪工場……………久保田 長典 62



◆部会報告 「建設現場における移動体通信の利用実態」 調査報告 (その1) —電波の利用状況と無線局の概要—	自動化委員会	66
◆新工法紹介 04-154 多機能計測工法/07-16 ウォータージェットによる 下水道施設劣化コンクリート除去システム	調査部会	69
◆新機種紹介	調査部会	71
◆文献調査 大断面シールドトンネル掘削機/安全な吸引式掘削機	文献調査委員会	75
◆統計 国際比較と協力 (国際協力) /建設工事受注額・建設機械 受注額の推移/建設関連統計	調査部会	77
行事一覧		82
編集後記	(成田・後町・矢嶋)	86

◇表紙写真説明◇

ロータリ除雪車  
(600 ps 級, ツーステージ式, R 600 形)  
東洋運搬機株式会社

雪寒地域の空港では、冬季においても通常どおりの運航を維持するために迅速な除雪作業が要求される。本機は、500 ps 級、400 ps 級ロータリ除雪車の長年の経験にもとづき、作業運転操作性、走行安定性などに改良を加えて、主に空港除雪を対象として開発した600 ps 級の高速ロータリ除雪車である。

作業速度20 km/h以上において、除雪能力2,600 t/h の性能を発揮する。また、広い場所での投排雪を効率良

く行うために最大投雪距離は46 mと大きい。その他、除雪負荷に応じて動力を有効に配分する自動負荷制御装置などが用意されている。

<本機の主な仕様>

除雪量(作業速度: 20 km/h以上にて)	2,600 t/h
最大除雪幅	2,600 mm
除雪機構前面高さ	1,700 mm
投雪距離	18, 28, 46 m
走行速度(前進最高)	49 km/h
最小回転半径(除雪装置最外部)	7.7 m
全長(走行姿勢)	8,410 mm
全幅(走行姿勢)	2,600 mm
全高(黄色回転灯上端まで)	3,610 mm
除雪自動車総質量(乗車定員2人含む)	19,210 kg

訂正: 本誌1997年9月号目次に掲載致しました「表紙写真説明」中の「・・北海道開発庁発注の・・」は「・・北海道開発局発注の・・」の誤りでした。お詫びして訂正いたします。なお、白鳥大橋の架設工事は、三菱・川重・橋崎特定建設工事共同企業体により行われました。